

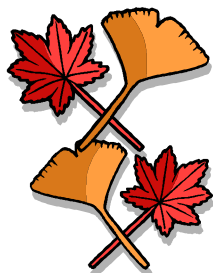
在宅医療連携拠点事業 事業報告

住み慣れた地域で誰もが
いきいきと暮らせるまちづくり

医療法人社団つくし会 新田クリニック
在宅医療連携拠点事業事務局

国立市について

- ▶ 東京都の中央部にあり
面積8.15Km²
- ▶ 人口74627人
- ▶ 高齢化率20.08%
- ▶ (H24年10月1日現在)
- ▶ 後期高齢者要介護認定者
2130名
- ▶ 認知症独居者245名 (認知症Ⅱa以上)
- ▶ (H25年1月1日現在)

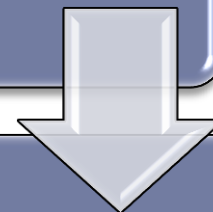


- 在宅療養支援診療所: 8ヶ所
- 訪問看護ステーション: 5ヶ所
- 地域包括支援センター: 1ヶ所

医療法人社団つくし会の取り組み

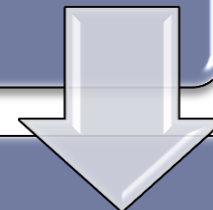
H20～21年度（東京都モデル事業）

- ・ 東京都在宅医療ネットワーク事業
- ・ 国立市在宅医療推進連絡協議会（全7回実施）



H23年度（国立市委託）

- ・ 国立市在宅療養推進事業
- ・ 国立市在宅療養推進連絡協議会（年5回実施）



H24年度（復興枠）

- ・ 在宅医療連携拠点事業
- ・ 国立市在宅療養推進連絡協議会（年6回実施予定）



平成20～21年度 在宅医療ネットワーク推進事業

東京都モデル事業(墨田区・豊島区・国立市)

▶ 国立市在宅医療推進連絡協議会の立ち上げ(全7回)

目的: 国立市における在宅医療調整システムの構築

▶ 委員 20名

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・社会福祉協議会・
歯科衛生士・介護職・市民・行政

「医師および市民への在宅医療に関する実態調査」



「在宅医療に関する相談窓口の設置」「病診連携の発展と診診連携の模索」「在宅医の育成」「在宅医療の質の深化を目指す多職種+市民の研修会の継続開催」を協議する

平成23年度 国立市在宅療養推進事業

▶ 活動母体：国立市在宅療養推進連絡協議会

事務局：医療法人社団つくし会・国立市

* 在宅医療⇒在宅療養と変更

▶ 最重要課題

➤ 多職種連携の構築

➤ 認知症対策



▶ 目的

- ▶ 市民が在宅で安心して療養できる環境を整備することについて、医療、保健および福祉の関係機関が連携して推進すること

▶ 協議内容

- ①在宅療養支援体制に関すること
- ②在宅医療に係る調整、相談および助言に関すること
- ③かかりつけ医、在宅支援診療所・病院間の連携に関すること
- ④地域医療関係者の人材育成に関すること
- ⑤市民の啓発

平成24年度 在宅医療連携拠点事業(復興枠)

活動母体: 国立市在宅療養推進連絡協議会

事務局: 医療法人社団つくし会・国立市

活動実績:

▶ 平成24年度 6回実施

事業内容

- 1. 国立市在宅療養推進連絡協議会
- 2. 国立市災害対策委員会
- 3. 情報共有ツールIT化
- 4. 在宅療養市民勉強会
- 5. 多職種連携/摂食嚥下研修
- 6. 多職種連携研修会/シンポジウム
- 7. 多職種連携事例検討会/地域ケア会議
- 8. 多職種連携/ケアマネ会議
- 9. 多職種連携認知症研修/アクションミーティング
- 10. 国立市認知症の日
- 11. 認知症介護家族間話し合いの場/家族会
- 12. 認知症カフェ



国立市在宅療養推進連絡協議会分科会 国立市災害対策委員会

▶ 目的:

災害時における対策を行政三師会合同にて検討する。

▶ 委員:11名

医師、歯科医師、薬剤師、行政、在宅療養推進連絡協議会代表。



検討内容:

- 医師会・介護事業所に災害時の協力体制を依頼
- 福祉避難所の確保
- 要援護者の把握
- 災害時に必要な備品の購入

情報共有ツールIT化

目的:

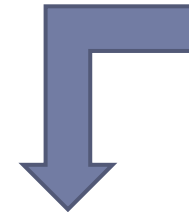
多職種が共通のフォーマットやツールを使用し、情報共有を図る

「生き生きノート」
病院の情報と介護の情報をひとつにまとめた連携パスのノート版

2010年4月北多摩西部保健医療圏「脳卒中医療連携推進協議会・地域ケア部会」にて作成。

使う人:

病院、診療所・ヘルパー・訪問看護師・
ケアマネ・本人・家族など



立川病院・(株)エスティム
協同作成中

在宅療養市民勉強会

▶ 目的:

市民の意識改革及び、在宅医療、療養に関する教育を行う(各地域ごとと少人数での開催)

▶ 活動:

11月 西地区 17名参加

12月 谷保地区 30名参加

1月 泉地区 23名参加

2月 東地区 27名参加

3月 北地区(予定)



どんな最期を過ごすか、自分、家族
で考え話し合う必要を感じた。

介護保険について知りたい

摂食・嚥下研修

▶ 目的:

在宅で美味しく、安全に食事がとれるように、また口から栄養を取る大切さを知っていただく

▶ 活動:

研修会開催

6月「地域で行う食支援」(専門職向)

6月「知って得するお口の話」(市民向)

9月「摂食嚥下を考える」(専門職向)

参加者数: 約173名



多職種連携研修会

シンポジウム

▶ 目的:

福祉先進国デンマークやオランダの
Buurzorg、「こぶし園」の現状を知り、
日本の制度や地域福祉・多職種連携の
あり方を考える機会とする

▶ 活動:

年3回開催

8月3日「世界一幸福な国にするために」

千葉忠夫先生 参加者数80名

9月7日「なぜBuurzorgは広まったのか」

堀田聡子先生 参加者数96名

3月13日「地域ケアをどう作る」

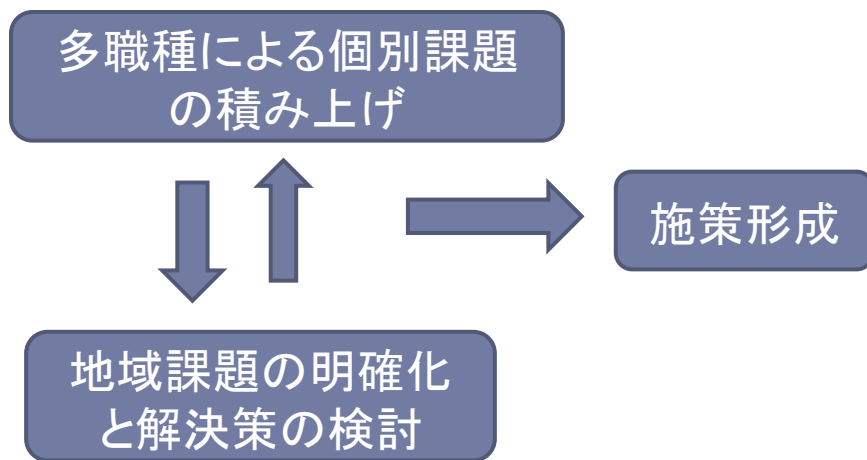
長岡市『こぶし園』の報告～

小山剛さん（開催予定）



多職種連携 事例検討会 地域ケア会議

- ▶ **目的**:在宅療養における医療ケアと介護の課題を焦点化する。在宅療養支援のモデルを作る。
- ▶ **構成メンバー**:医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、保健師、ケアマネ、市民、行政等(約25名)
- ▶ **事例**:認知症独居、老老世帯、難病、ガンなど



認知症独居の見守りは、介護保険だけでは限界。



多職種連携

ケアマネ会議

▶ 目的:

地域における医療と介護の連携の現状と課題を明確化すること。在宅療養における医療・介護連携基盤構築

▶ 活動:

12月26日 第一回ケアマネ会議
グループディスカッションテーマ:
「医療と介護の連携課題抽出及び
解決策について」



グループディスカッションで
同じ目線で医師の意見を
きけて有意義だった。

ケアマネと医師のコミュ
ニケーション不足。

認知症アクションミーティング

- ▶ **目的:** 認知症になっても、住み慣れた地域でご家族と共に安心して暮らせる町づくり
- ▶ **テーマ:** ～わが町国立アクションミーティング～

ナビゲーター: 認知症介護研究・研修東京センター副部長・ケアマネジメント推進室長 **永田久美子氏**



アクションテーマ

1. 市民の理解を高める研修(劇づくり)
2. いつでも集まれる場づくり
3. デイサービスがやれないことをやれる場づくり
4. 見守り隊
5. 「私は認知症」と言えるキャンペーン
6. 本人家族が情報を得られるようなサービス

参加メンバー: 市民・認知症当事者・医療・福祉従事者・行政ほか

▶ **活動成果の報告として** 10月20日「国立市認知症の日」

国立市認知症の日

▶ 目的:

世界アルツハイマーデーにちなんで、国立市において認知症の理解を深めてもらう市民啓発の日とする

▶ 活動:

10月20日

「国立市認知症の日」

参加者数 約278名

毎年10月の第3土曜日を
国立市認知症の日と制定

▶ プログラム

- ◆ アクションミーティングの実践報告
(6グループによる発表)
- ◆ 認知症当事者による歌
- ◆ 認知症を理解する寸劇
- ◆ 座談会

長谷川和夫先生
永田久美子さん
新田國夫代表

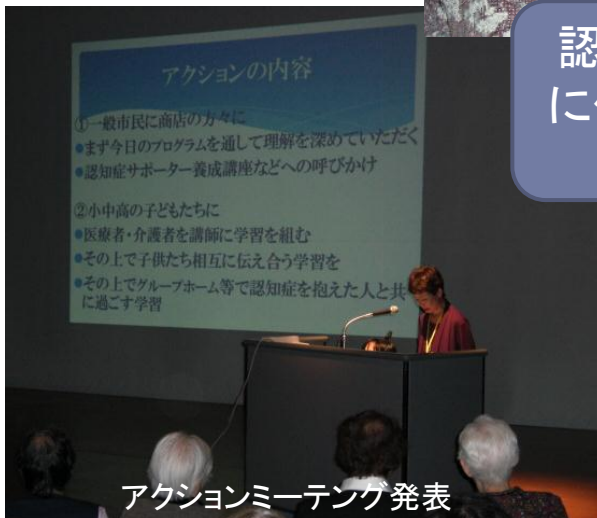
国立市認知症の日



当事者による歌



寸劇



アクションミーティング発表

認知症になっても、「国立に住んでいるから大丈夫」と思えると心強い。



座談会

認知症への具体的な対応が知りたい。

認知症介護家族間話し合いの場 家族会

▶ 目的:

認知症の人が在宅において生活を継続するために、実際に介護をされている家族を支援する



▶ 活動:

家族会開催(全11回実施)
6月、9月、12月、3月

課 題

家族会に参加している方々が今後主体となって活動継続できるよう支援していく。

認知症カフェ

▶ 目的:

- ・ 認知症に対する知識の普及
- ・ 認知症に向き合う

▶ 参加者

認知症本人と家族、友達、地域住民、専門職等が誰でも参加できる

同じ悩みを抱えている
方々と交流し少しでも前
向きな気持ちになりたい

▶ 活動:

月一回(全12回実施)

ニーズの高いテーマを話題提供している



今後に向けて

継続課題

- ・在宅療養患者のための災害対策
- ・医療と介護の連携
- ・地域住民への普及活動
- ・認知症対策



『病気や認知症になっても365日24時間安心して暮らし続けられる仕組み作り』に取り組みます

